

税を追う

取材班から

優先順位 ちぐはぐ

「今すぐ、どうしても導入しないとイケないのか」急増する米国製兵器の輸入問題を取材していると、自衛隊の現役やOBからそんな声をよく聞く。特に組上に載るのが地上配備型迎撃ミサイルシステム「イース・アシヨア」だ。

円。「どっさりミサイルが飛んできたら、全部を撃ち落とすのは難しい」「あつた方がいいとは思つが、費用に見合つた効果はあるのか」。議論は尽きないのに早々と導入を決めた。

らの逸脱だけではない。「人員や搭載機だけでなく、空母を守る艦船の態勢も必要になる。予算が多少増えたとしても、それで賄えるのか。現実的とは思えない」。ある自衛官はそう言つて眉をひそめた。

備」など、現場は日々の活動で四苦八苦。アシヨアが話題になると、「二千億円あればもっと手当てができるのに」とこの思いがにじむ。五兆円を突破して膨張する兵器ローン。岩屋防衛相も三十日の会見で「有り体に申し上げると、やりくりが大変」と認めた。優先順位はきちんと付いているのか。政府と現場のちぐはぐ感が拭えない。(原昌志)

艦「いずも」の事実上の空母化も、論点は専守防衛か戦闘機の部品不足を別の機種の部品で補つ「共食い整合